廣川　治氏ご遺族からの寄付金について

佃　栄吉[1)]

2011 年 1 月にお亡くなりになった元地質調査所職員廣川　治氏（写真 1）のご遺族から，地質調査総合センター（Geological Survey of Japan; 以下 GSJ）に対して，1000 万円もの高額のご寄付のお申出がありました. 代表として，2011 年 9 月に，これを有り難くお受けし，10 年程度の期間，ご趣旨に沿って運用することとしました．廣川　治氏のご経歴・ご功績については，本号の P.19 ～ 21 の「廣川　治さんの生涯と業績」に山田直利氏から詳しく紹介されています．第 2 次世界大戦後の復興期から，5 万分の 1 地質図の調査研究，20 万分の 1 地質図や 100 万分の 1 地質図の編纂に関して継続的に多大なる貢献をされた方です．また，退職後は鉱物資源探査を目的として，専門家として数多くの国々の調査に従事され，その国際貢献が非常に高く評価されている方です.

この度の寄付は，地質調査所を愛し，その責任と役割の重要性について人一倍認識しておられた廣川氏の側で身近に接してこられた，ただ一人のご令嬢，廣川ひろみ様からのお申出です. 寄付金申込書には,「寄付金等に係る条件等」として,「旧地質調査所 OB である廣川治の精神を活かすため，委員会を設置して，使途を特定して適切に運用すること．活動報告をホームページ等で公表すること.」と記され，さらに,「その他の希望する事項」として,「旧地質調査所設立の年を 1 年目とすると今年は 130 年目となる．この長い歴史を大切にしながら新しい時代の GSJ としてあるべき姿，為すべきことを考え，国の内外から信頼される研究機関となってほしい．人間として正しい行いをし，なすべきことに対しては真摯な姿勢で臨むという廣川治の精神を引き継いでいってほしい．すでに実践されているのであれば今後も続けてほしい. 若手研究者の発言・発表の場や機会を多く設けてほしい.」と期待を述べられています.

ご意思を忠実に反映して，この寄付金を効果的に活用していきたいと考えています．例えば，海外での国際共同研究や国際連携の推進のために，若手研究者が海外の機関や大学へ行くための費用として，この寄付金を使わせていただきたいと考えています．我々が社会的出口としている防災，環境保全，資源開発に関して，より高度な地質情報の整備は不可欠であり，そのために，国際的に活躍できる人材を一層必要としていることは，論をまたないと考えています．若手研究者の育成のための資金として，有効に使わせていただきたいと思います.

写真 1　故　廣川　治　氏.

廣川さんをはじめ多くの諸先輩またそのご家族の方々が，GSJ に対して今もなお深い愛着を持たれ，その発展に大きな期待を抱かれている現状を深く受け止め，GSJ として広く国民の安全や日本および国際社会の発展に貢献できるよう邁進していきたいと改めて考えています.

２万人近い死者・行方不明者を出した東北日本大震災が発生した年にこの寄付金を頂いたことは，われわれの社会的な存在意義を振り返る上で非常に意味の有ることだと思料します．廣川　治先輩のご冥福をお祈りするとともに，ご遺族のご意思を重く受け止め，新たな発展を期して，GSJ 職員ともども一層努力してまいりたいと思います.

TSUKUDA Eikichi (2012): Generous Donation to GSJ from the family of the deceased Osamu Hirokawa.

(受付：2011年12月2日)

1) 産総研　地質調査総合センター代表

キーワード：廣川　治，寄付金，地質調査総合センター